



## 春季特別展

### 広重と東海道展 一行書東海道・隸書東海道を中心に

関ヶ原の戦いが終わり、徳川家康が江戸に幕府を開いてから200年、天保年間

(1830～43)になると江戸は百万都市に発達し、平和を謳歌した人々で溢れていました。東海道を利用する人の数も増え、伊勢参りをする巡礼者だけでも半年で400万人を越えていました。しかし体力やお金のない人たちは広重が描いた東海道の錦絵を見て街道を旅したつもりで空想の道中を楽しみました。

歌川広重は、天保4年(1833)頃に不朽の名作「東海道五拾三次之内」(一般に「保永堂版東海道」という)を開板します。作品は出版当初より売れ、そして売れ続けました。「保永堂版東海道」は広重の代表作であると共に出世作になり、その後も広重は東海道シリーズを20種類以上制作しました。

今回紹介する作品は、「東海道一五十三次 日本橋」(大判 版元：丸屋清次郎)です。

この作品は外題が隸書体で描かれているので一般に「隸書東海道」と呼ばれています。制作は嘉永2年(1849)頃で、版元は丸屋清次郎です。「保永堂版東海道」が出板されてから16年後に開板された作品です。

作品は日本橋を東から西を見た構図で前景に日本橋、中景に商家の蔵と江戸城、遠景に真っ白な富士



東海道一五十三次 日本橋 (大判)

山が描かれています。この構図は日本橋を描く時の定番です。日本橋には日本橋魚河岸で仕入れた鯉を2匹天秤棒で担ぐ魚売り、剣菱の家紋が入った酒樽を運ぶ二人、上下で正装し二人の家来と飾槍、挟み箱を持った供の者、旅人、子女、丁稚など様々な人が描かれています。

馬頭広重美術館長 市川信也

【開館時間】 午前9時30分より午後5時まで  
(但し入館は4時30分まで)

【休館日】 月曜日

【入館料】 大人 700円(630円)  
高・大学生 400円(360円)

※( )は20名以上の団体料金。

※70歳以上の高齢者、中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

### ミニギャラリー 平成23年度那珂川町観光写真コンテスト 受賞作品

#### ミニギャラリー 作品募集!

あなたの作品を出展してみませんか?

写真、絵画、絵手紙などの作品をお待ちしております。

申し込み・問い合わせ:  
企画財政課広報聴係

☎0287-92-1114



優秀賞「大きな足」

山中富夫さん(宇都宮市)



入選「棚田に響く馬頭琴の音色」

富永 明さん(宇都宮市)